

# 斑点米カメムシ類の発生を考慮した レッドトップの刈り払い時期（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収抑制技術等の確立

研究課題名 帰還に向けた省力的ほ場管理技術〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕

担当者 三本菅猛、根本知明

## I 新技術の解説

### 1 要旨

旧避難指示区域等では、被覆作物としてレッドトップを導入した農地の保全管理が注目されている。本種は、斑点米カメムシ類の発生源になることが懸念されるが、7月中旬に刈り払うことで水稻出穂期間中の斑点米カメムシ類の発生を抑制できる。

- (1) レッドトップは2018年10月15日に播種し、2019年と2020年に斑点米カメムシ類のすくい取り調査を実施した。
- (2) レッドトップにおける斑点米カメムシ類の発生消長は、成虫が7月上旬まで増加し、幼虫が7月中旬から8月上旬にかけて増加した(図1)。
- (3) レッドトップを6月、7月、8月の中旬の3回に分けて年1回刈り払いしたところ、レッドトップを7月中旬に刈り払いした後は、8月中旬まで斑点米カメムシ類の発生が2頭以下に減少した(図2)。

### 2 期待される効果

- (1) 保全管理中に被覆作物としてレッドトップを導入した際に、近隣水田における斑点米カメムシ類対策の参考となる。

### 3 活用上の留意点

- (1) レッドトップを栽培しているほ場の近辺に水稻を作付けしている水田がある場合は、7月中旬に刈り払いを推奨する。
- (2) 6月の刈り払いは、レッドトップの2番草が出現し、水稻出穂時期に斑点米カメムシ類が増加する可能性がある。8月の刈り払いは、斑点米カメムシ類を水田に追い込む可能性がある。
- (3) 夏場の刈り払い作業になるため熱中症対策を行う。
- (4) レッドトップは播種から2年目になると雑草が増加する可能性がある。

## II 具体的データ等

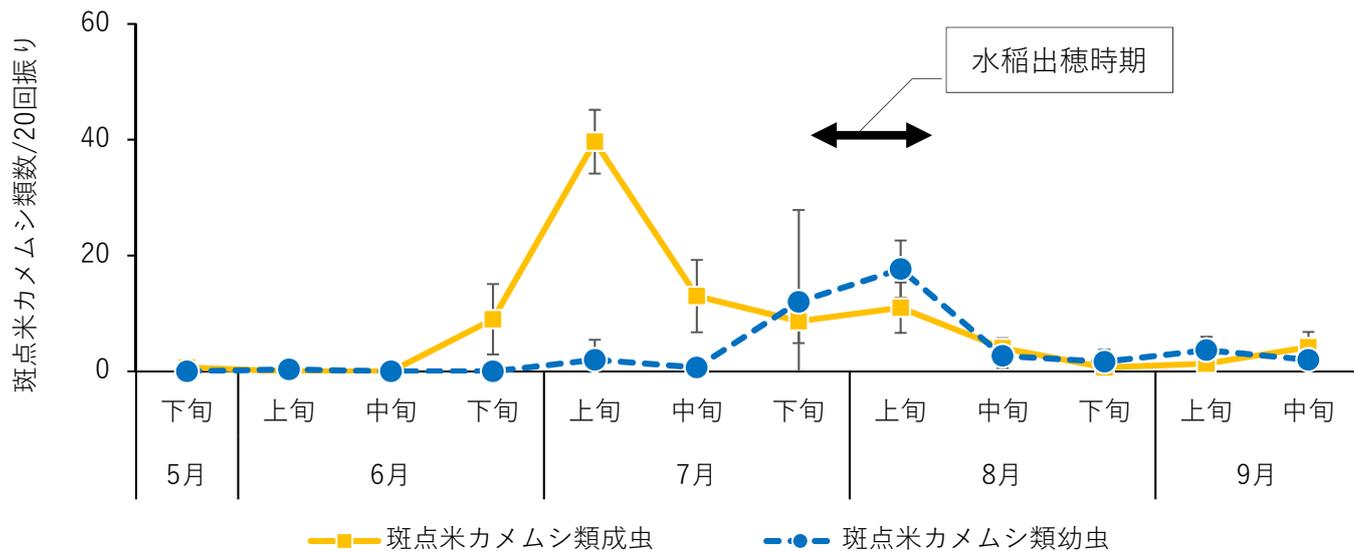


図1 無処理区の斑点米カメムシ類の発生消長(2020)

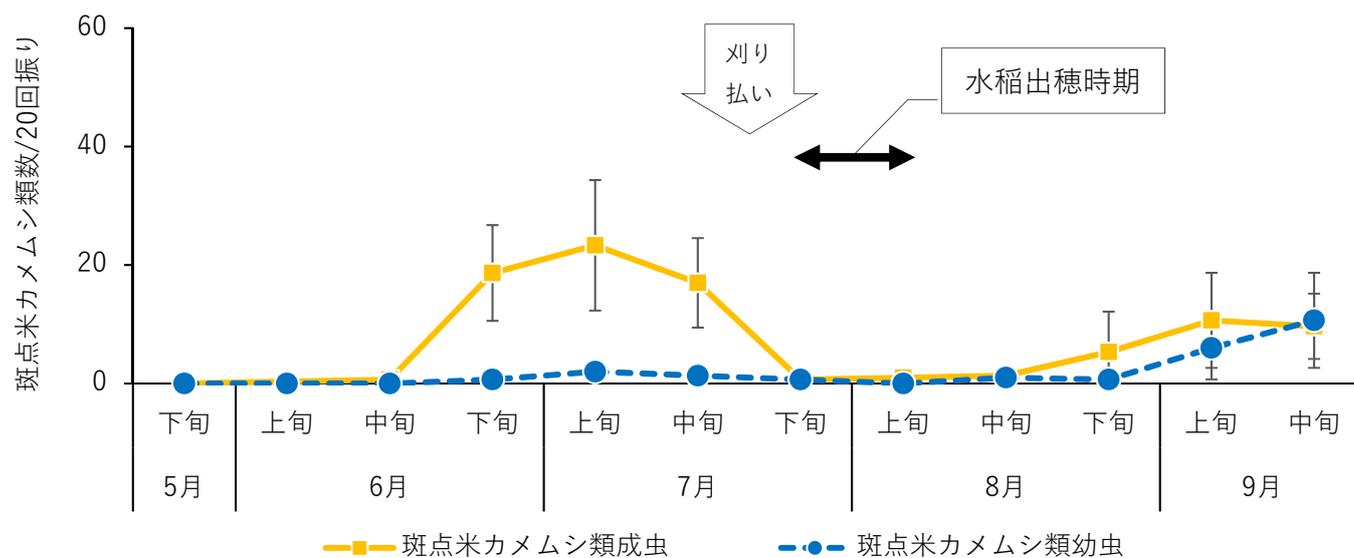


図2 7月刈り払い区のカメムシ類の発生消長(2020)

## III その他

### 1 執筆者

三本菅猛

### 2 実施期間

令和2年度

### 3 主な参考文献・資料

なし